

令和元年6月26日

藤井委員

初めに、湘南地域のシェアサイクルについて伺います。このシェアサイクルを活用した観光振興について、私も湘南地域ということで、本会議で提案をさせていただき、実現へ踏み出していきましたが、今年度から実証実験を予定しているということなので、その事業実施へ向けた進捗状況について伺います。

初めに、湘南地域でシェアサイクル事業を実施する意義と、県内のほかのエリアでも実施している例があるかと思いますが、それと比べて特徴的なものがあれば伺いたいと思います。

観光企画課長

湘南地域は、海沿いに東西に走る国道134号に沿って、鎌倉、江の島、大磯など、有名な観光スポットが存在し、年間5,000万人を超える観光客でにぎわっております。特に、国道134号の一部には、富士山を眺めながら走ることのできるサイクリングロードが存在するなど、シェアサイクル事業を実施することによって、より魅力的な観光周遊ルートとなることが期待されております。また、シェアサイクルは、鉄道を利用して湘南地域に来る観光客にとっては、駅を基点に観光地までの、いわゆる二次交通としての活用が期待されるものでございます。

次に、特徴ですが、湘南地域、平塚、鎌倉、藤沢、茅ヶ崎の4市、それから寒川、大磯、二宮の3町、これで湘南地域自転車観光推進協議会を構成しております。これは他の実施経営母体と比べますと、今までにない広域エリアでの実証実験と考えております。また、自転車をとめるサイクルポートの設置など、これらの必要な費用でございますが、今回は民間資本を活用することとしておりまして、いわゆる行政負担は原則ゼロ、これも二つ目の特徴であると考えております。

藤井委員

4市3町ということで、広域であるがゆえの難しさもあると思いますが、御答弁いただき、今回のこの事業実施に当たって、全額民間出資で、行政の負担がゼロということですが、採算について伺います。

観光企画課長

このシェアサイクルの実証実験を行うに当たりまして、まず、事業者にもヒアリングを実施しております。事業者からは、多くの人を訪れる湘南エリアであれば、将来的には採算性が見込まれるという回答を得ましたので、実施に踏み切ったという経緯がございます。また、事業者にとっても利用者から徴収する登録料、利用料が収入になりますので、利用率を上げることが採算性を高めることにつながります。

そのためには、なるべく多くのサイクルポートを設置する必要があるため、現在、湘南地域自転車観光推進協議会の構成自治体も事業を実施する事業者とともに、ポートの設置場所の確保に向けた調査を行っている状況でございます。

藤井委員

そういった意味で、民間の知恵をしっかりと使っていただき、しっかりと行政の負担がないように進めていただきたいのですが、この事業の実施ですが、具体的にいつごろを想定して、また、先ほどからサイクルポートのお話がありましたが、どの地域に設置しようと考えているのか伺います。

観光企画課長

8月末に江の島でセーリングワールドカップが開催されまして、ここに多くの観戦客が訪れることが期待され、これに合わせまして事業を開始することを考えておりまして、現在、スポーツ局とも調整しております。

また、具体的なサイクルポートの設置場所でございますが、このシェアサイクル事業、地域の4市3町の主要駅、それから国道134号を中心とした観光スポットを結ぶ、まさに二次交通ネットワークの構築を目的としておりますので、この地域にできる限り多くのサイクルポートの設置を確保していきたいと考えております。

藤井委員

8月末に、実証実験を実施すると御答弁いただきましたが、4市3町ということもあり、またその協議会、事業者さんも来るということで、大きな組織体になると思いますが、こういった調整を行っているのか、課題、今後の取り組みについて伺います。

観光企画課長

現在、協議会と事業者間でポートの設置に必要な公有地の確保、それから、ポートをつなぐ周遊ルートの設定を調整しているところでございます。また、並行しまして、協議会と事業者の役割分担、それからポートに設置する配置機材、自転車などの調達、それから利用者や収入の見込み、人員体制など、必要な事項を盛り込みました事業計画の調整を行っています。そうした中で、8月末の事業開始までにどれだけ多く利用者にとって利便性の高いポートの設置場所が確保できるかがまさに当面の課題でございます。早期に設置が可能な公有地を絞り込んでおりまして、施設管理者と調整を進めているほか、民有地につきましても、関係の事業者と調整を開始しているところでございます。

藤井委員

ポートの確保ということで、そこが大きなポイントだと思います。その中で、乗り捨て可能のこのシェアサイクルは、横浜でも出ましたが、特定のところに放置されたりする可能性があるということです。そういった心配をどのように考えているのでしょうか。こういった事業は安全性がまず一番だと思うので、十分配慮する必要があると思いますが、お考えを伺います。

観光企画課長

委員が御指摘のとおり、特定の場所に自転車が偏ってしまいますと、まさに利用者が借りたいときにポートに自転車がない、また、返したいときにポートに返すスペースがないといったことがあるので、ここは、事業者が定期的に自転車の再配置を行うことで、利用者の利便性を確保していきたいと考えています。

また、放置自転車につきましても、ポートに自転車を返却しない限りは、利

用者に課金され続ける仕組みとなっておりますので、他団体の例を見ましても、放置自転車の可能性は少ないと考えています。

安全性の確保でございますが、これにつきましては、利用者自身の交通ルールやマナーの遵守が求められるところでございます。事業者が現在、予約のアプリ、それからサイクルポートや自転車に、こういった基本的なルールを掲示しまして、安全性の喚起を図っていき、保険の加入やトラブル時に対応可能な体制の構築、こういった安全対策につきましては、今、所轄警察署を含めまして関係機関や地元と調整しているところでございます。

藤井委員

この実証実験の期間、実証実験が終わった後、その効果の検証や事業展開について、どのように考えているのか伺います。

観光企画課長

本事業の実証実験期間でございますが、2022年3月までの期間を予定しております。この事業の効果についてですが、シェアサイクルは、例えば、利用予約時に登録する情報や自転車に設置されるGPSによって、利用者の性別、年齢、人数、それから立ち寄った観光スポットなどの各種データが把握できます。終了後は、このデータを事業者と構成自治体間で共有し、観光プロモーションの施策に活用していきたいと考えています。

この事業の継続につきましては、2022年3月までの利用実績、それから利用者にもアンケートをとりたいと考えておりますので、今後、期間について、検討していく予定です。

藤井委員

2022年3月は長いと思うのですが、いかがでしょうか。

観光企画課長

今、お話したとおり、オリンピックまでの期間と考えたのですが、利用者が平準的に使うデータとなると、オリンピック後の1年も合わせて実証実験を行うことで、観光客の動向等のデータを把握したいと考え、この期間を設定させていただきました。

藤井委員

このシェアサイクルに関しては、特に湘南地域では、大いに期待をして待っております。先ほどのポートに関しては、地元の協力がないと先に進まないもので、しっかり連携を取っていただきたいと思っております。事故が起きると事業は潰れかねないこともありますので、慎重に進めていただきたいと思っております。

次に、ライブサイトの実施に向けた取り組みについて伺います。規模と内容について、ご説明いただきたいと思っております。

オリンピック・パラリンピック課長

今回の東京2020大会のライブサイトが、全部で3種類あり、これが実施主体で分けますと、組織委員会との共催によりまして会場所在自治体を実施する東京2020ライブサイトと、会場所在自治体でない自治体も実施できるコミュニティライブサイト、それから教育機関や自治体なども実施できるパブリックビューイングの3種類となっております。

まず、これら3種類の規模については、特段の規定はございません。内容に

については、東京 2020 ライブサイトとコミュニティライブサイトは、お祭りのようなイメージで、競技中継を中心にステージイベントや競技体制などを扱うことになっています。その辺は同じですが、東京 2020 ライブサイトにつきましては、さらにスポンサーが公式ライセンスグッズの出店などの実施が可能になるので、若干、大会の雰囲気、演出の度合いが高いイメージでございます。

一方、パブリックビューイングにつきましては、競技中継のみの実施が可能となっています。このうち、本県が直接実施を予定しておりますのは、この東京 2020 ライブサイトでありまして、報告書に記載させていただいている内容につきましては、この東京 2020 ライブサイトのことでございます。

藤井委員

報告書によると、今年度は会場の選定や、運営計画の作成に取り組んでいるということですが、結構大きな規模なので、ライブサイトの実施に当たっての留意点がありましたら伺いたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

多くの方に感動と興奮を共有していただきたいので、会場の選定に当たりまして、まず多くの方が集まりやすい会場という点を重視しています。そこでまずは、交通の便がよいこと、多くの来場者が集まることができる広場的な場所であること、それから会場の雰囲気の盛り上げ大事ですので、飾りつけなどがやりやすい構造であるといったような視点で検討しつつ、何よりも、やはり安全・安心が重要なので、警備や救急等の体制をしっかりとれるかといった点にも留意しているところでございます。

藤井委員

それでは、県で実施するライブサイトは、何カ所程度を想定しているものかということと、ともに生きる社会の実現を目指している神奈川県ですから、パラリンピックも重視をしていきたいと思いますが、パラリンピック期間もライブサイトは設置するのでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

本県では、オリンピックとパラリンピックの各期間で、それぞれ1カ所ずつの計2カ所を計画しております。本県にはパラリンピックの会場はありませんが、このライブサイトも加味して、いわゆるパラスポーツに注目を集めて、いかに共生社会の実現につなげるか、関係局とも連携しながら取り組んでいくところでございます。

藤井委員

このライブサイトですが、県で実施していくわけですが、いわゆる県内の市町村でも、手を挙げるところがあるかとは思いますが、そういう県内の市町村で実施するような予定はあるのでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

東京 2020 ライブサイトにつきましては、県以外では、競技会場市は実施可能でございます。現在検討中とのことの回答でございます。また、競技会場がない、その他の市町村でも、コミュニティライブサイトとパブリックビューイングは実施が可能ですが、現時点では未定ということでございます。

なお、本県におきましても東京 2020 ライブサイトの箇所数につきましては、

組織委員会からは競技会場数、4カ所程度を目安とするように言われているところでございます。

藤井委員

今、4カ所ということですが、これは、本県の人口からすると非常に少ない数だと思いますが、この点について、どのように考えていますか。

オリンピック・パラリンピック課長

関東近県に問い合わせしてみたところ、コミュニティライブサイトとパブリックビューイングにつきましては、まだしっかりした概念、ガイドラインのようなものがないということもありまして、本県同様箇所数は未定という御回答でありました。

ただ、東京2020ライブサイトにつきましては、それぞれ1カ所か2カ所という回答が多く、現時点で本県が特に少ないということではないと考えております。

藤井委員

私の地元の平塚はリトアニアが事前キャンプ地で、総合体育館を改修していきます。非常に、機運は盛り上がっていきまして、この間もよさこい祭りをやったとき、リトアニアを紹介するようなどころがあり、平塚市民の中ではリトアニアが身近になってきて、応援態勢に入ってきています。そのなかで、県内でもそういった事前キャンプを受け入れているところがあるとは思いますが、ライブサイトはハードルが高いかもしれませんが、いわゆるパブリックビューイングに取り組み、みんなで、できるだけ集まって応援したいという気持ちもありますが、こういったライブサイト以外のパブリックビューイングについて、今後はどのように取り組まれていきますか。

オリンピック・パラリンピック課長

公民館や体育館などの県民に身近な場所で実施は可能とされているパブリックビューイングですが、気軽に会場の熱気と臨場感を味わっていただけるスペースなので、県といたしましても、夏ぐらいに公表されるということなので、それが組織委員会から示された際には、県内市町村に丁寧に情報提供していき、その上で、県といたしましても、市町村の意見を聞きながら、できるだけ実施しやすい仕組みになるよう組織委員会にも働きかけ、あるいは何らかの支援ができればと考えております。

藤井委員

できるだけ生で見たいという方々が多いとは思いますが、地域のコミュニティのような、みんなで一緒になって、そこに出向いて応援するという観点は本当に大事だと思います。また、それが一つの思い出づくりにもなると思うので、スポーツ局の皆さんも機運醸成ということで随分盛り上げてきていただいているのですが、1人でも多くの皆さんがお出かけになって、一緒にその感動を味わうという機会をつくっていただきたいと思います。そういった中で、安全に進めていただき、大成功で終われるようにしていただきたいとお願いして終わりたいと思います。